



問 市民の生命を守る津市の救急医療体制について問う

年間の救急搬送人数が高止まりしている中、三重大学医学部附属病院をはじめとした医療関係者の方々の尽力とたゆまぬ努力によって津市の救急医療体制が維持されていると考えており、医療関係者に敬意を表するとともに、新たな二次救急輪番体制となったことによる改善の状況を問う。

答 医療機関と連携し、救急体制の維持・強化に努める

令和7年の救急搬送人数は1万6,019人と高止まりしており、依然として厳しい状況が続いているが、令和6年4月に新たな二次救急輪番体制となって以降、状況は改善傾向にあり、重症以上の傷病者の救急搬送状況は、令和5年は病院照会件数4回以上が6.1%、現場滞在時間30分以上が12.5%であったのに対し、令和7年はそれぞれ2.2%、7.0%と大きく改善されている。令和7年の病院照会件数は平均1.25回と、多くの事案において1回で搬送先が決定する状況となっており、今後も医療機関等と連携を深め、市民が安心できる救急体制の維持・強化に努めていく。

その他の質疑・質問

- バス・タクシー・一般車両が輻輳し、混雑する津駅西口駅前広場の整備スケジュールは
- 学校体育館の空調整備に係る手法と内容は
- 市民が希望を持って暮らし続けられる津市を丸となって創造すると力強く述べる市長の思いは
- 生活応援商品券「プレミアム付商品券」発行に係る積極的かつ分かりやすい情報発信を など

▶ 救急消毒室等が整備され、令和8年3月から運用開始した新たな中消防署西分署



問 加齢性難聴者に対する支援や配慮についての考えは

加齢性難聴は、社会参加の低下や孤立、認知症リスクにつながる身近な課題であるが、身体障害者手帳の対象外となる高齢者からは補聴器購入費用の負担が大きいとの声が多く寄せられていることから、補聴器購入補助制度の創設を求める。

また、誰もが窓口で安心して相談できる環境を整備するため、市役所の窓口で軟骨伝導イヤホンを試行的に導入してはどうか。

答 加齢性難聴者に対する支援の方法について調査・研究していく

加齢性難聴者に対する補聴器購入補助制度の創設については、国への働きかけを県に要望しており、県からは、認知症予防効果を検証し、効果が見込まれるようであれば補助制度の創設などの財政措置を検討するよう国に要望したとの回答を得ている。今後は、国の動向を注視しつつ、補助を実施している他の自治体の取り組みも参考にしながら調査・研究していく。

また、市役所の窓口への軟骨伝導イヤホンの導入については、現在窓口で設置している集音機器に軟骨伝導イヤホンを接続できることが分かったため、集音機器と組み合わせた活用を検討する。

その他の質疑・質問

- 自転車ルール改正を踏まえた交通安全対策の強化について
 - 市の対応について
 - 児童生徒への交通安全教育の強化について
 - 市民全体への周知・啓発の取り組みについて
- 英語教育の質向上に向けた支援について

▶ 軟骨伝導イヤホンを用いた窓口対応の様子

